

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O970300414		
法人名	有限会社栃木ケアーズ		
事業所名	栃木ケアーズグループホームほほえみ		
所在地	栃木県栃木市箱森町19-34	電話:	0282-25-0550
自己評価作成日	令和元年 8月 2日	評価結果市町村受理日	令和元年 9月26日

## ※事業所の基本情報は

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル		
訪問調査日	令和元年 9月11日	評価確定(合意)日	令和元年 9月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は3階建てのビルをリホームし、2階3階がグループホームです。出入りはエレベーターとなり、自由に外に出ることはできないが、ハード面は変えることが出来ないため、できるだけ閉塞感を感じることなく穏やかな日々を過ごしていただけるよう、外出外食や外気浴等を計画している。また、2階なので天気の良い日に男性山や筑波山を眺めたり、地域の花火大会ではキッチンにしながら打ち上げ花火を見ることができ、入居者の楽しみとなっている。地域の方の協力により、納涼祭、敬老会、運動会に参加することも毎年の楽しみとなっている。ご家族との交流は家族会、納涼祭がある。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

栃木バイパス沿いの、スーパーマーケットなどが多く立地する便利な場所に在り、1階はデイサービスと訪問介護、2階と3階を2ユニットのグループホームとしている平成15年に開設された事業所です。利用者の思いを受け止め、笑顔が見られその人らしさを大切に介護の実践に努めている。事業所主催で地域の子供達参加の納涼祭や地域のお祭り・敬老会など地域との交流にも努めている。家族、自治会長、民生委員、地域の協力者、地域包括が委員である運営推進会議は定期開催され意見交換が行われている。毎年の家族会でアンケートや意見を聴く機会を設け、提案により来客用駐車場の整備も行われた。家族の意向を確認しながら、協力医、看護職員との連携により、開設以来継続して看取りの実施もしている。経験豊かな介護職員を中心にして、利用者・家族が安心出来、その人らしく、笑顔で過ごせる介護を実践している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (2階さくらユニット) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (さくらユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解しやすいように目の付くところに掲示し、実践につなげている。	法人の基本理念を事業所の理念とし、更に行動指針を定め、事業所名にもなっている「ほほえみ」の見える支援の共有に努めている。利用者の思いを受け止めているかどうかを日々確認し合うことで共有し、日々の関わりを通じて利用者から感謝の笑顔を得られるケアを目指し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入させていただいている。地域の行事に参加し、交流を図っている。	事業所で開催する納涼祭には、太鼓・お囃子などで地域の子供達も参加し、利用者は体操を披露するなど双方向での楽しみに繋がっている。また地域の祭りではおみこしが来たり、フラダンス、うたごえなどの地域ボランティア受け入れなどで利用者も楽しんでいる。地元の敬老会への参加などの交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を通じて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席されたご家族、地域の方からのご意見、ご要望をいただき、サービスの向上に努めている。	家族、自治会長、民生委員、地域の協力者、地域包括が参加し、定期開催されている。事業所の状況や行事報告、身体拘束についての意見交換など行われている。時には利用者と共に創作レクレーションに参加することもある。各委員、全家族に開催の案内と議事録の送付も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき協力関係を築くよう努めている。	介護度の変更や事故報告の際に市役所を訪問し、事業所の実情の報告や取り組みについて伝えている。また地域包括職員は市職員であり、運営推進会議を通じて意見交換や相談などを行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケース会議の場で代替性があるか等、あらゆる角度から検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	起上り時のふらつきや睡眠時の体の位置が激しく移動する利用者に対して、ベッドの4点柵対応での実施事例があり、一人については現在も継続している。適正化委員会でも検討し、短期間(約1か月を目的)での拘束実施計画として、医師や家族とも相談しながら心身の安定を図るなどして解除に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は笑顔で愛情を持って関わるように努めているが、毎月の会議の場で常に適切な言葉かけができていないか注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価（さくらユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をして理解、納得を図っているが、その後も疑問などあれば丁寧に説明することを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会のときのアンケートから意見を聞いて反映している。	家族の来訪の頻度は多くあり、来訪時や更に毎年の家族会でアンケートや意見を聴く機会を設けている。来訪時に駐車場が狭くて使いにくいという提案があり、来客用の駐車場を設けた事例がある。また事業所便り「まごころ」と共に、利用者の状況を2か月に1回担当職員が自筆で報告するなど家族意見が出易いような配慮もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している全体会議（2階3階）の場で意見や提案を出すようにしている。	全員出席で2ユニット合同の月1回の全体会議で行事や改善に関する意見交換を行っている。納涼祭の終了後に冷水タオルで利用者の汗拭きなど提案され実施した。また比較的ゆっくり支援が出来るとして入浴時間を午前中に変更するなど職員意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフはやりがいや生きがいを持って働いているが、まだまだ他業種と比較すると給与水準は良いとは思えない。国の努力を期待したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修、認知症実践者研修、リーダー研修、その他参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内の各施設代表が合同会議を開催し、意見交換している。また、他施設からの研修生を受け入れたり、研修に参加して学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価（さくらユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はできるだけ寄り添い、1～2週間は小さなことでも細かくメモをとり職員間で情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階ではあまり不安や困っていることはつかめないため、ケアマネからの情報を参考にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時は建前が多いため、職員間で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に笑顔が絶えず楽しく過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時にじっくり話す機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのように努めているが、思うようにいかない。	時に友人が訪ねて来ることもあり、利用者の喜んだ笑顔を見ることが出来、場所設定やお茶出しの支援をしたり、再来訪をお願いしている。市のお祭りに行き知人と会ったり、昔からよく知っている場所の近くをドライブすると喜ぶ表情が見られるなどの支援の事例もある。また年賀状を出すなど馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日参加できる方と体操や笑いヨガをした後に、お茶を飲みながら談笑したりレクリエーション活動をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最期までここでと希望される方が多く、職員一同でご家族のフォローをしている。関係性は大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価（さくらユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが全ての入居者の思い等を把握できるよう、2か月毎に担当を変え検討し、全員で共有している。	年齢・介護度が上がり約半数の利用者は自らの言葉での意思表示や意向の確認が難しいので、表情や仕草で確認をしている。利用者を特に意識するように、2か月交代の担当職員制にして、全職員での利用者の思いや意向の把握に努めている。こんな本が読みたいという利用者には図書館へ同行するなど対応したこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前のケアマネージャーから情報収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や食事分量、排泄状況、バイタル等の記録をし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケース会議をして、職員全員で検討している。	介護計画は原則半年ごとに見直しをしている。日々の生活状況を見ながら全員出席の毎月1回のケア会議で課題の抽出及び支援の方向を検討し、モニタリングも実施している。家族の訪問時に家族の意見を聴き介護計画に反映している。利用者毎の目標を事務室の白板に書き出し、日々目標を意識してケアが出来るように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記入のほかに、連絡帳にケアの改善点や意見、気づきを記録し情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方がいらした時にデイサービスの方と一緒に楽しんだり、車いすのご利用者が多くなったため、外出時にデイサービスの運転手の方にお手伝いをいただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩がてら近くのコンビニを利用したり、図書館を利用することもある。		

自己	外部	項目	自己評価（さくらユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医はホームの提携医に変更している。2週間毎に往診していただいている。ご家族も安心していただいている。	利用開始時の説明で全員が協力医に変更し、2週間に1回の訪問診療を受けている。訪問診療時は正看護師職員が中心となり対応し、重要な診察結果は家族に電話などで伝えている。他科にかかる時は原則職員が同行対応をし、情報提供をするなど適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月・水・金、看護師が出勤して情報の共有を図っている。医師、看護師、職員の連携はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった時は職員が交代で毎日病院へ面会に行き、看護師の方と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化されたとき、終末期のあり方を説明している。一年毎にご家族の希望をお伺いし、その時期にはご家族、主治医、看護師、職員、施設長とで話し合い、計画書を作っていく。	事業所開設当初より看取り加算を取得し、以来継続して看取りに取組み、昨年は3名の看取りを実施した。利用開始時及び引き続き家族から年1回の「ターミナル(看取り)ケアについての意見要望書」にて家族の意向の確認を継続している。大部分の家族は「柘木ケアーズで最期を迎えさせたい」との意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回、消防隊の方の講習を受講ようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1回避難訓練をしているが無反応の入居者が多い。職員は避難経路を理解している。	10月と4月に総合消防訓練を実施しており、鉄筋の建屋で2階、3階に位置するため、消防署の指導により、3か月に1回のベランダまでの誘導訓練を実施している。総合訓練では消火器による消火訓練も行っている。	消防訓練において、地域住民の参加を実現できるような取り組みに期待します。また夜間対応(夜勤者2階1名、3階1名)の手順の検証確認について職員間で詳細な話し合いが行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価（さくらユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けてはいるが、一人ひとりの人格を尊重した対応や言葉かけができていないか日々振り返りをしている。	呼びかけは姓にさん付けを基本とし、職員も笑顔で丁寧な言葉遣いを心掛け、人格の尊重に努めている。失禁などは素早く居室に導くなど対応したり、利用者間の相性に配慮した座席にするなどプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる方は思いや希望の実現できるように支援している。表出や自己決定の難しい方には職員がこれまでの日常の様子から思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日きれいにお化粧する方や、午前と午後でお召し替えする方もいらっしゃる。その人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやランチョンマットを畳んだり、飲み終わったコップの片づけ等、お手伝いをしてもらっている。	調理済みの食材を購入して湯煎して提供し、ご飯と汁ものは事業所で調理している。介助の必要な利用者が多く職員は介助に徹し、キザミやトロミ対応もしている。体調によっては居室で食事している利用者もいる。また利用者の好みを聞くなどしての行事食や誕生会は楽しみに繋がっている。時々外食もし、食事に変化をつけて利用者の楽しみに繋げている。食器拭きなど手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量を記録し、一人ひとりの状態を把握している。夏場は定時以外にもこまめに水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と食後に口腔ケアをしている。できない方は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価（さくらユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立していない方は排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。夜間はふらつきのみられる方はポータブルトイレを使用している。	自立排泄が出来る利用者もいるが、ほとんどの利用者がオムツやリハパン対応であり、排尿・排便記録や利用者の表情を見ながらのトイレ誘導をしている。夜はセンサーマットも使い起きてきた利用者にはトイレやポータブルへの誘導、他は定時のパッド交換の対応をしている。体操や笑いヨガなどを実施し、現状維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎身体操は30分くらいしている。食事のメニューにヨーグルトや牛乳等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一般浴と特浴。曜日も分かれている。特浴の人数が増加。2階3階の職員二人体制で行う。個々に浴った支援ができないのが現状である。	週2回午前中の中の入浴で、一般浴が6名、特浴が10名の利用で、特浴は二人の職員で対応している。入浴中は行事や食事の話をすることもあり、本音が聞ける場にもなっている。入浴を嫌がる利用者には、時間をずらすなどの対応をしている。一般浴ではゆず湯などの季節の湯を使うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方の起床時間は自由にしている。支援が必要な方は服薬の時間を考慮して起床している。室温、寝具は気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化は常に職員が看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事食や時にはテレビを観ていて食べたくなった物を買ってきて喜ばれている。冬は焼き芋、夏はかき氷やアイスを楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に計画を立てて外出をしている。虫を見に行ったことも。また、春先は施設の庭で外気浴を兼ねたお茶会をすることも楽しみにしている。	ほぼ半数の利用者が車椅子対応であり日常的な外出頻度は少なくなっているが、閉塞感の低減や気分転換も兼ねて、事業所の庭で散歩や外気浴を取り入れている。デイサービスの車を借りるなどして、お花見や紫陽花見物、ぶどう刈りなど月1回程度の外出に努めており、利用者の笑顔に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価（さくらユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のことはほとんどの方が口にしない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は電話の取り次ぎをしている。 年賀状は毎年書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある職員の作品や手作りカレンダー等に癒されている。	キッチンとリビングは壁を挟んで続いており、キッチンにはテーブル、リビングにはソファを置いてテレビを見たり、ゲームをしたり楽しむ場となっている。利用者の顔写真や習字などの作品も貼り出されている。また2階、3階の窓からの見晴らしが良く、明るいキッチンになっている。キッチンとリビング、廊下、トイレなどは専任の清掃職員がおり、清潔に保たれている。またテーブルや調理台を除菌剤で清掃し、感染症などの衛生面にも注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいときは居室で過ごされたり、共用空間の中でおしゃべりを楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただいている。	各部屋洋室で壁に嵌め込みのクローゼットが備え付けられ、明るい掃き出し窓となっている。家族の写真や飾ったり、各人思いおもいの物を持ち込んでその人らしい生活の場となっている。2階と3階はほぼ同じ配置で、2間続きの大部屋が各階に3室あり、家族の宿泊の場にもなっている。専任の清掃職員がおり、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに目印となるように写真付きの表札を貼っている。共用トイレは矢印に沿って行けばわかるように表示をしている。		